

大分市における
緩衝緑地の現況把握と
整備推進地区の選定

地震や台風など災害大国の日本

- ▶ 都市における緑地の防災機能の重要性

緑地の保全推進を目的とした「大分市緑の基本計画」

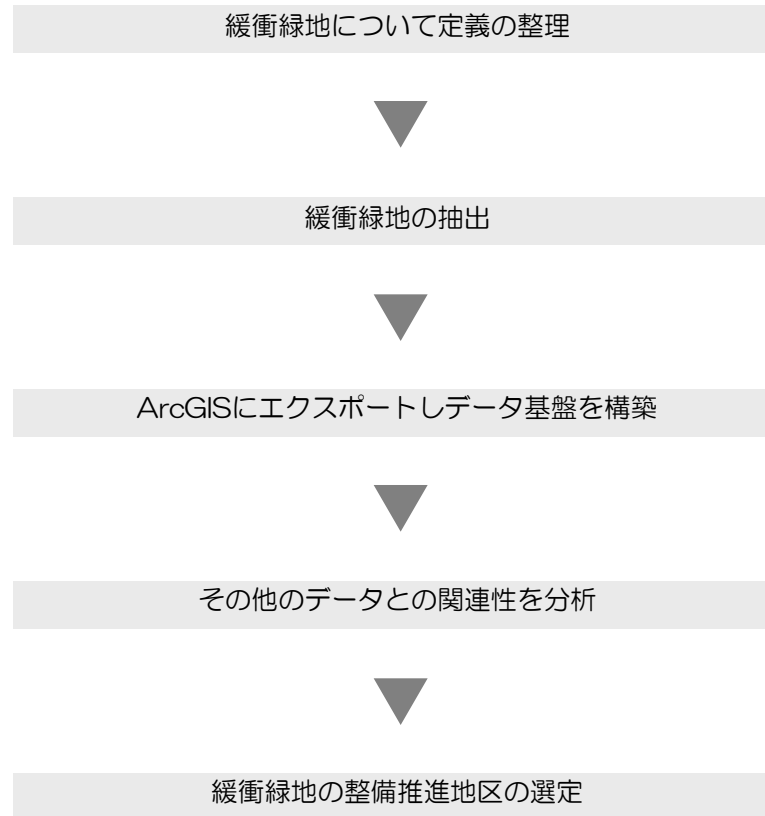
- ▶ 緩衝緑地、保安林、農地、公園緑地などの保全、整備を推進

既往研究をみると、緑地の防災的な側面から生産緑地（農地）や公園に関する研究は行われているが緩衝緑地に関する研究は見られない・・・



大分市における緩衝緑地の実態を明らかにし、今後、緩衝緑地の維持・整備が的確に行われることを目的としている。

研究のフロー



緩衝緑地の定義

緩衝緑地とは一般的に、公害や災害の発生が危惧される地域（工業地域等）と居住地域、商業地域等とを分離遮断することが必要な位置に設置される緑地のことである。



しかし・・・

「交通量の多い道路に隣接して設けられている緑地」、「住宅団地内の斜面緑地」、「公園緑地」など防災的な機能を果たすバッファとしての緑地は数多く存在すると考えられる。

緩衝緑地の分類

- A. 公害や災害の発生が危惧される地域と住宅地区・商業地区とを分離遮断する緩衝緑地
- B. 比較的交通量の多い道路に隣接して設けられている緩衝緑地
- C. 住宅地の傾斜地にある緩衝緑地
- D. 防災的な機能を備えている緩衝緑地

調査方法

現地調査対象地区の選定

A、Bの緩衝緑地	→	Google Earth、ArcGIS
C の緩衝緑地	→	大分市宅地開発 (101ヶ所)
D の緩衝緑地	→	大分市都市公園 (231ヶ所)



現地調査

各ポイントで写真撮影



緩衝緑地A

緩衝緑地B

緩衝緑地C

緩衝緑地D

- A・十分な緑地（中高木）があり、バッファとして機能している
 - ・工業地域などの公害や災害の発生が危惧される地域と住宅地区・商業地区とが接している

- ・十分な緑地（中高木）があり、バッファとして機能している
- B・主要幹線道路など交通量の多い道路と住宅地区・商業地区とが接している

- ・住宅地内または住宅地外周の傾斜地にある斜面緑地である
- C・斜面の上下に住宅などの建物があり、緑地がバッファとして機能している
 - ・十分な緑地（中高木）があり、バッファとして機能している
- ※（雑草などの草地は斜面緑地として防災的な機能が低いと考えられるため、本研究では緩衝緑地とはしない）

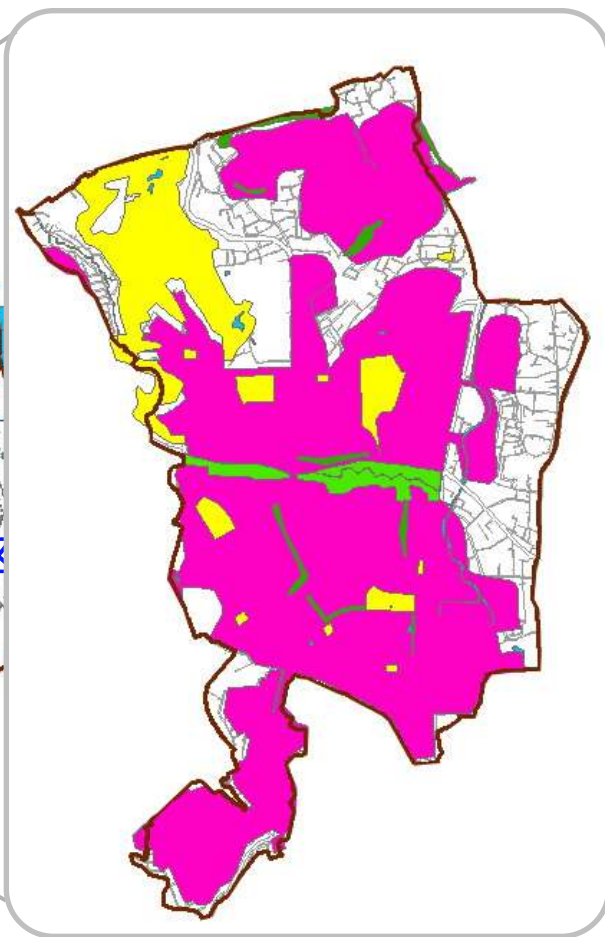
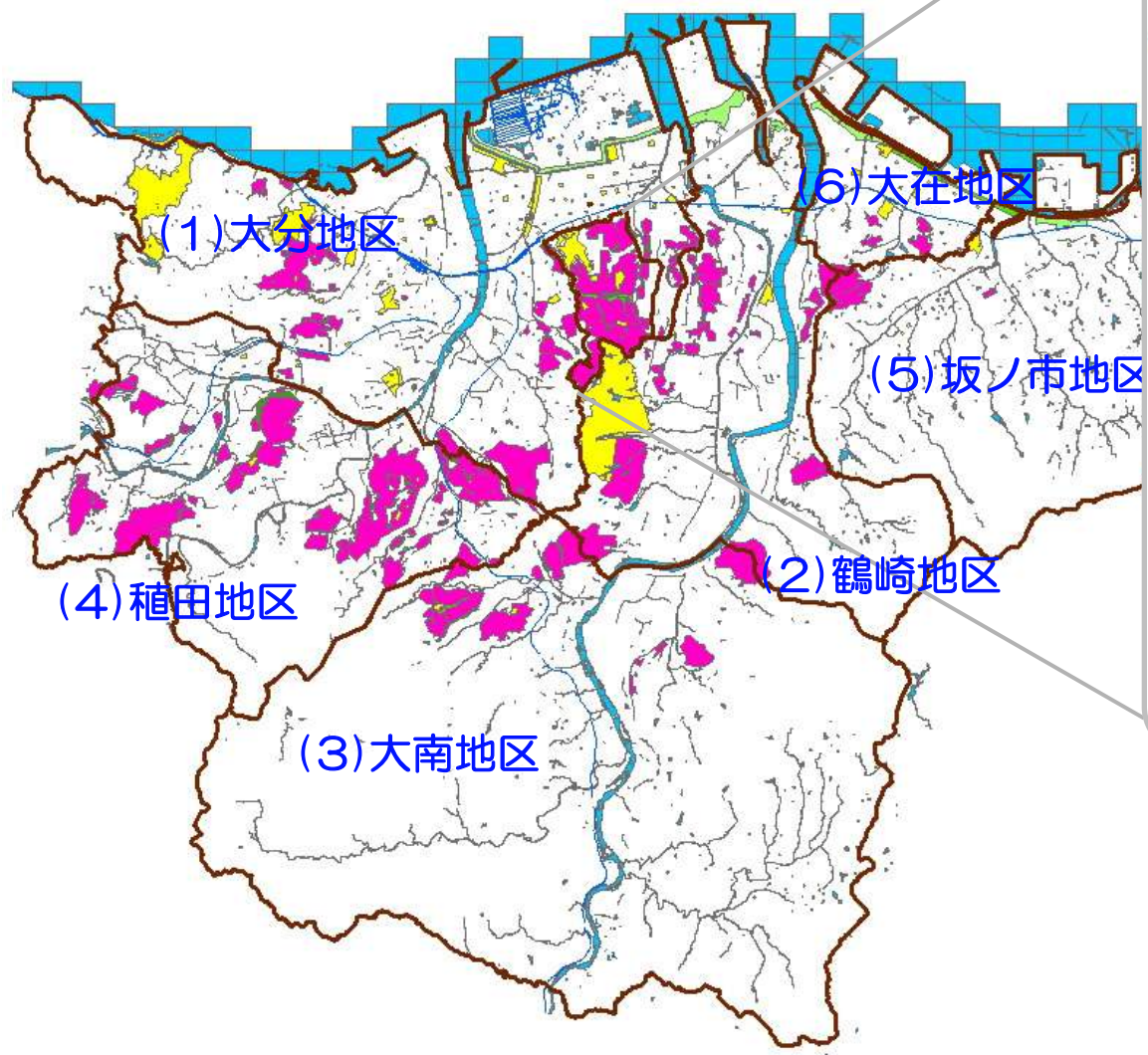
- ・公園内に緑（中高木）がある
- D・緊急時に、周辺の住民が避難しやすい場所である
 - ・公園の周辺に住宅などの建物があり、公園緑地がバッファとして機能している

緩衝緑地の抽出結果

	地区	緩衝緑地数	面積平均(m ²)	面積最大値(m ²)	面積最小値(m ²)
緩衝緑地A	大分	1	48711.4	48711.4	48711.4
	鶴崎	6	90888.5	402337.3	2759.6
	坂ノ市	1	201390.4	201390.4	201390.4
	大在	1	311519.9	311519.9	311519.9
		9	171706.1	48711.4	2759.6
緩衝緑地B	大分	7	2965	4921.1	2102.2
	大南	2	27124.1	42285.7	11962.5
	大在	1	273148.3	273148.3	273148.3
	明野	1	96919.1	96919.1	96919.1
		11	40460.9	273148.3	2102.2
緩衝緑地C	大分	18	5532.6	24547.7	141.6
	鶴崎	11	3878.3	17747.8	459.9
	大南	6	13138.6	31794.4	3304.87
	植田	33	10886.9	122114.6	654.9
	大在	2	3320.8	3942.6	2698
	明野	11	6248	16119.5	16119.5
		81	8095.4	122114.6	141.6
緩衝緑地D	大分	95	35374.4	15576775	645.2
	鶴崎	21	129708	2566706	1649.9
	大南	3	15925.4	25404.7	3601.3
	植田	16	5507.7	29711.2	1181.3
	坂ノ市	13	12921.9	134679	1437
	大在	21	10141.5	82636.5	1458.9
	明野	12	46629.7	431597.2	1681.6
		181	36562.7	2566705.5	645.2

調査の結果、緩衝緑地A,B,C,D合わせて282箇所抽出した。本研究では、緩衝緑地の面積について具体的な定義を定めていないので抽出結果の面積にはばらつきが見られる。

大分市緩衝緑地図

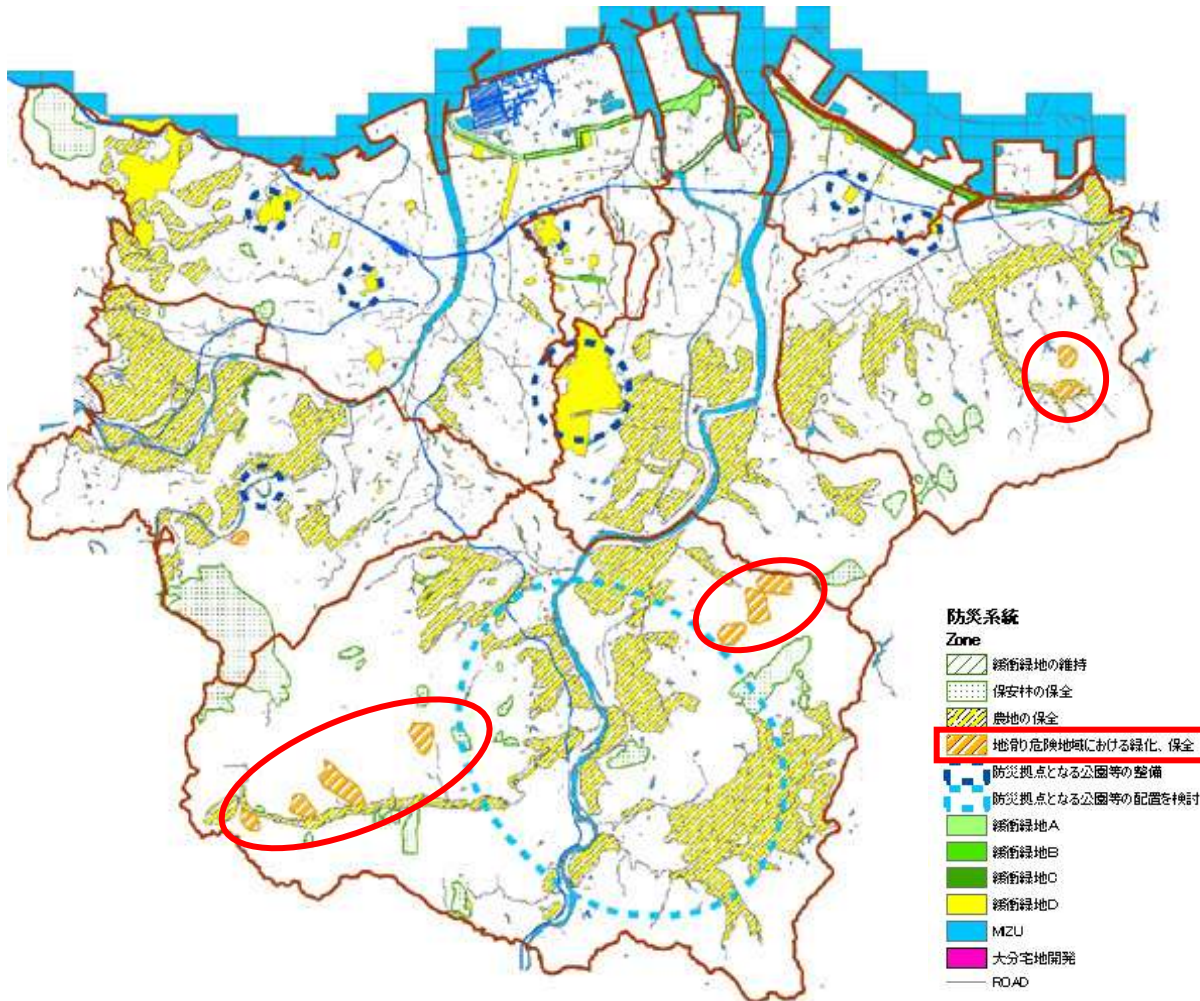


(7) 明野地区

- 緩衝緑地A
- 緩衝緑地B
- 緩衝緑地C
- 緩衝緑地D
- 大分宅地開発
- ROAD

緩衝緑地と緑の基本計画

- 「大分市緩衝緑地図」のデータに「大分市緑の基本計画」防災系統配置方針図のポリゴンデータをオーバーレイする。



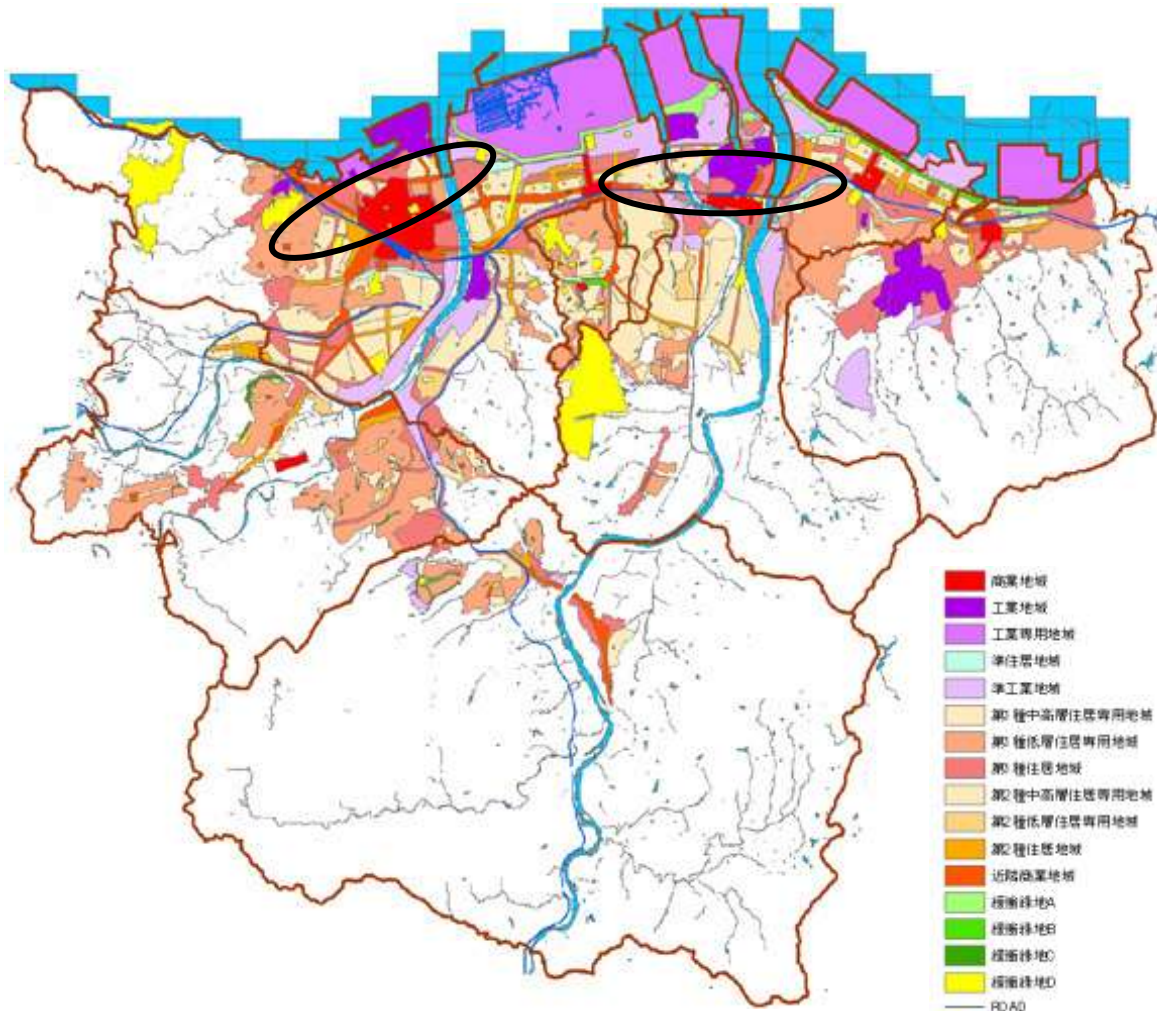
「緑の基本計画」防災系統配置方針図では「地すべり危険地域における緑化、保全」という項目に指定されているのは山地であり、住宅団地はほとんど指定されていない。



本研究で抽出を行った緩衝緑地Cを中心に住宅団地における緑地の保全・整備を行うことが重要。

緩衝緑地と用途地域

- 「大分市緩衝緑地図」のデータに大分市の用途地域のポリゴンデータをオーバーレイする。



大分市北部の臨海部で広範囲にわたって工業系の用途地域と住居系・商業系の用途地域が接しているにもかかわらず、現状では緩衝緑地が整備されていない地域が数箇所確認できる。



土地利用の観点から考えると、この地域には緩衝緑地の整備が望ましいと考えられる。

- 抽出方法について、新たな手段(航空写真や地形データなどを利用)を見出すことによって、より正確な緩衝緑地の地図を作成することができると思われる。
- 緩衝緑地の分類や関する定義に関しても、専門家による環境学（樹木の種類）からのアプローチをとり入れることによって、さらに信頼性のある分類が可能であると考えられる。
- 本研究においては平成17年1月1日佐賀関町、野津原町合併前の旧大分市を対象としたが、佐賀関町、野津原町合併後の新大分市のデータ整備が求められる。

END